

アニメ作品におけるキャラクター推薦システムの提案

高木 美月

日本のアニメは国内のみならず、海外でも絶大な人気を誇っている。動画配信サービスでは、年々新たな配信作品が追加され、大量のアニメが配信されている。アニメ作品に登場するキャラクターは、作品の人気に影響を及ぼす要因の一つであり、作品を見るきっかけにもなり得る。しかしながら、動画配信サービスでは、新作、人気、ジャンル別、協調フィルタリングなど、作品単位の推薦しかされていない。キービジュアルだけではキャラクターの性格などがわからず、好みの顔でなければスルーしてしまうので、顔以外の出自や性格などを重要視する消費者にとっては、好きなキャラクターに出会うのが難しい状況である。これらのことから、キャラクターを推薦することによって、動画配信サービスにおける作品の推薦とはまた違った作品を推薦することが可能であると考えられる。

本研究では、アニメ作品のキャラクターを推薦する手法を提案し、そのシステムを構築する。キャラクター推薦システムでは、Web上のテキストから抽出したキャラクターの特徴を用いて、ユーザーの好きなキャラクターと特徴が類似しているキャラクターを推薦する。また、キャラクターの特徴抽出に用いるデータや抽出方法、推薦の手法について有効性を検証する。そして、評価実験によって、このシステムが被験者のキャラクターと作品への興味を高める可能性について検証する。

提案システムでは、「しょぼいカレンダー」から作成したキャラクターリストと、「ピクシブ百科事典」の記事を用いて、キャラクターの特徴を抽出した。特徴を抽出できたキャラクターは 14,664 件であった。これらのキャラクター同士の類似度の算出には、コサイン類似度+tf-idf、Doc2Vec、キャラクターの特徴を表す単語リストの 3 つの手法を用いた。また、その結果の評価には、予備評価、ランダム 10 件、正解データの 3 つの評価方法を用いた。

tf-idf では、キャラクターの名前や作品中によく使われる単語の tf-idf 値が高くなっており、結果に影響を及ぼしていると推測された。Doc2Vec では、似ているジャンルの作品のキャラクターが推薦されていると推測された。リストでは、キャラクターの特徴に関する語を抽出できるものの、他のキャラクターに対する記述や、キャラクターに対する記述ではない部分とマッチしており、ノイズも多く含まれていることがわかった。結果はどの手法も良いとは言えないものであったが、リストを用いる手法が一番有効であり、改善によって良いシステムになる可能性があると考えられた。

(指導教員 高久 雅生)